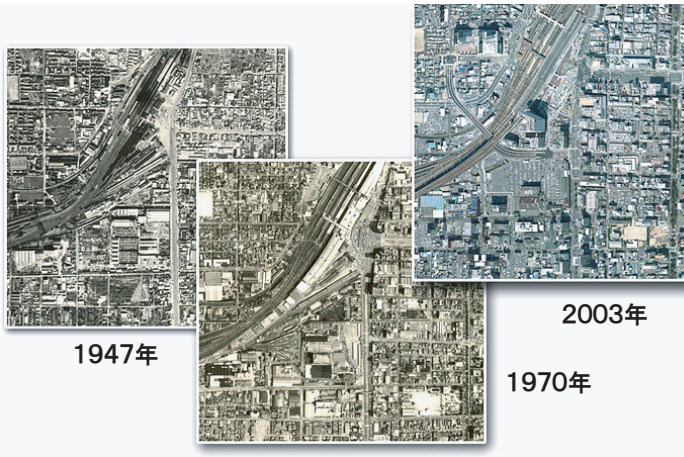


## 空から見た三つの時代の岡山市



1947年

2003年

1970年

岡山駅周辺の航空写真

ライブラリーに保存されている映像の撮影場所を特定するには色々な方法を使います。その一つが、過去の空撮写真を手掛かりにするやり方です。センターには総務から引き継いだ、1947年と1970年の岡山市主要部の大伸ばしの航空写真が保存されており、ホイットニー少佐のフィルムや昭和30年代のフィルム映像の、場所特定に活用されています。このほどこれに、同じ部分で縮尺も同じ現在の写真を加えて3枚の大型パネルにし、通路に展示しました。

23年と33年の時を隔てた3枚の写真は、単独で見るときとは違っていろいろな情報を提供してくれます。左に載せた3つの写真は、その中から岡山駅周辺を切り取ったものです。駅の変遷や駅前広場の整備の様子、それに、旧日本電気工場跡の変化の状況が見て取れます。空襲で焼け野が原となった市街地を再建した人達の、汗の結晶とも言える応急住宅群、新幹線の開業を控えた高度経済成長下の岡山、高層ビルが建ち並び始めた街並み。それらは文字通り郷土の発展の足跡であり、将来を予測する手がかりでもあります。センター

では、出来ればエリア内の主要都市だけでもこうした写真を揃え、アーカイブの手掛かりにすると共に、来所される方のお役に立てられればと考えています。

### 著作権 知識

#### 「①著作権の寿命はなぜある」

記録メディアの歴史を連載途中ですが、臨時の著作権豆知識です。最近ご質問の多かった著作権の寿命について2回に渡って考えます。

絵画にしる、映画にしる、思いついて創り上げるにはアイデアと試行錯誤、長い時間、それにたくさんのお金が必要です。しかしそれをまねするだけなら産みの苦しきも無く、しかも少ないコストで同じような物が作れます。もし最初に思いつき、創り上げた人の権利を守ってあげなければ、馬鹿らしくて誰も新しい物を作ろうとしないでしょう。そこで生まれたのが著作権です。

では、著作権にはなぜ寿命があるのでしょうか。著名な画家や音楽家でも、昔のメロディーや構図を下敷きにしていることが多いといいます。もし著作権が永遠なら、その人達の作品のほとんどが過去の著作権者の権利を侵害する事になって何も作れません。それでは世の中の創作活動を大きく阻害することになります。そこで著作権に保護期間を設けて、その期間が終わると、過去の著作物をみんなで自由に使うことが出来るようにしようと言うのが著作権の寿命の趣旨です。

世界各国が加盟しているベルヌ条約ではこの権利の寿命を最低50年と定めています。50年というのは、著作物の恩恵をこうむるのが著作権者の孫の代までという規定です。日本でもこの条約に1899年に加盟しており、国内で制作された著作物は、著作者が亡くなってから50年、企業団体の場合は発表されてから50年、著作者が独占的に使えるようになっていきます。でも、この寿命の長さに異議を唱える人たちが出てきました。次回はこの動きを取り上げます。

### 大型中継機材を追加

今月中旬に製作技術部からセンターに大型照明器具2機が運び込まれました。かつて



西大寺会陽の中継などに活躍をした照明で、中には大人の頭より大きい5キロワットの電球が入っています。

センターではこの照明と中継用カメラをセットにしてテレシネやテロップ送出機と共に通路に展示し、来所者や通行する人達に見て頂いています。

照明は現在外注となっているため、こうした器具を社内で見られるのもここだけとなりました。